

〔再造林地におけるシカ被害防除技術の開発〕

エアアタック装置の現地試験

新井一司・近藤徳高*
(緑化森林科・*畜産技術科)

【要 約】 再造林地において、エアアタック装置の効果を試したところ、野生のシカの警戒心は強く、エアアタック装置に近づくまでに 33 日を要しており、今後、装置の電池切れ対策などの検討が必要である。

【目 的】

これまで飼育シカの試験で、開発中のエアアタック装置は、範囲は限定的であるが、その効果は認められた。この効果を実証するために、シカ被害が生じている再造林地において、試験し、野生シカの反応を把握する。

【方 法】

調査地は、森林循環促進事業で 2013 年にスギ・ヒノキ・広葉樹を再造林した八王子市の林地で、面積は 8.4ha である。試験は、2016 年、オスジカの角による剥皮害が集中する 9 月から 12 月にかけて行った。3 台のエアアタック装置 2 号機を、シカが多く利用していると推定された 1 地点に設置した。エアがシカの顔に当たるようにするために、シカの誘引として塩混じりの土（塩：土＝1：5、塩は 500cc 使用）を図 1 に示したように装置の中心に配置した。エアアタック装置の動作確認および装置周辺のシカの動きを把握するためにセンサーカメラ (HykeCam SP108-J, Hyke, Inc.) を 4 台設置し、静止画＋動画モードで撮影した。

【成果の概要】

1. エアアタック装置をセットしたその日の夕方、アナグマにエアが的中した（図 2）。しかし、装置周辺でシカは 1 頭も撮影されなかったため、設置 8 日後、別のセンサーカメラでシカが多く撮影された 10m 下の地点に装置一式を移動した（表 1）。
2. シカ誘引用の塩混じりの土に更に塩を追加した翌日の朝、図 3 のように装置から 5 m 離れた位置までシカは塩の匂いで近寄ったが、その後、これより内側に近づかず、警戒していた。初めて塩混じりの土を食べに来たのは、図 4 に示した子ジカであり、装置を設置してから、摂食するまで 33 日かかった。しかし、エアは、装置の電池切れのため発射されなかった。その後、子ジカに連れ添う母ジカも土を食べたが、他のシカは、半径 5 m より遠方から 2 頭の行動を見ているものの近づくことはなかった。
3. 11 月 16 日時点で、植栽木のオスジカによる剥皮害は、装置を中心に半径 5 m の範囲内は確認されなかったが、その外側では、多数の剥皮害が確認された。
4. まとめ：エアアタック装置は、シカに的中すれば防除効果があると推定されるが、野生のシカの警戒心は強く、装置に近づくまでに 33 日を要した。今後、装置の電池切れ対策などの検討が必要である。



図1 エアアタック装置の配置状況



図2 アナグマに的中した様子(2016/9/28)
装置を配置した日の夕方, 的中した。

表1 作業内容とエアアタック装置によるシカの反応

年月日	作業内容	シカなどの反応
2016/9/28	エアアタック装置を3台配置し, 作動開始。	
2016/9/28		アナグマに的中した。 シカは装置の近くにいなかった。
2016/10/6	シカが装置に近づかなかったため, シカが多く撮影された10m下の地点に装置を移動。	
2016/10/21	塩混じりの土に塩を追加し, 装置を3台から2台に変更。	
2016/10/22		装置から5m離れた位置にシカ4頭出沒。
2016/10/31		子ジカが塩混じりの土を食べに来た。 しかし, 装置の電池切れによりエアは作動せず。



図3 5m離れた位置で警戒する4頭のシカ
(2016/10/22)
塩の匂いに近寄ってきたが, 5m以内には近づかない。



図4 装置に初めて近づいた子ジカ
(2016/10/31)
装置に慣れるまで33日を要した。